

# 自治協ニュース

第0203  
発行者  
八本松住民  
自治協議会  
R02.06.20

林野庁  
東広島市

## 今期の雨季に備え災害復旧工事 急ピッチ 二基目の強靱ワイヤーネット完成 下流には治山ダム二基を



④溪流

④溪流に設置されたワイヤーネット(長さ14m・高さ4m)・更に下流に1基、上流に4基の治山ダム設置予定



④溪流

下流域の治山ダム(平成12年度設置)に  
捕捉された巨石や土砂で流路を整備

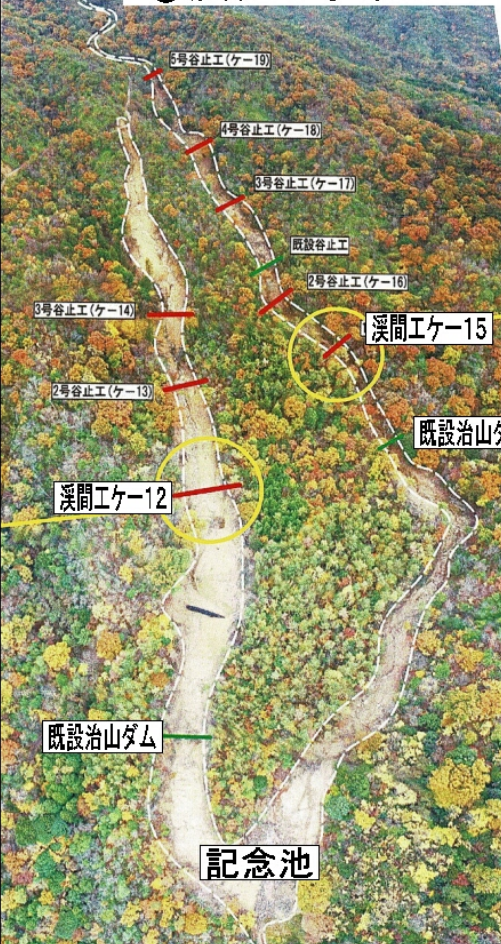
6月8日(月)、林野庁山地復旧対策室と東広島市建設部は、住民自治協議会に治山事業(八本松地区民有林直轄治山事業)による復旧工事の進捗状況と今後の見通しを明らかにした。

この治山事業は西日本豪雨で曾場ケ城山山腹の10カ所の溪流で生じた荒廢地を10年間で復旧させるもので、昨年度から林野庁により本工事

がスタートした。最初に、溝迫交差点に大きな被害をもたらした⑦溪流が3月、④溪流が4月に土砂災害を防止する緊急防災施設(通称・強靱ワイヤーネット)が相次いで完成した。(写真上)

特に、④溪流は急斜面で想定以上の巨石と軟弱な土質のため仮設道の敷設やワイヤーネットの固定等難工事にもかかわらず予定よりはやく完成させられた。現在、ネットの下流域で

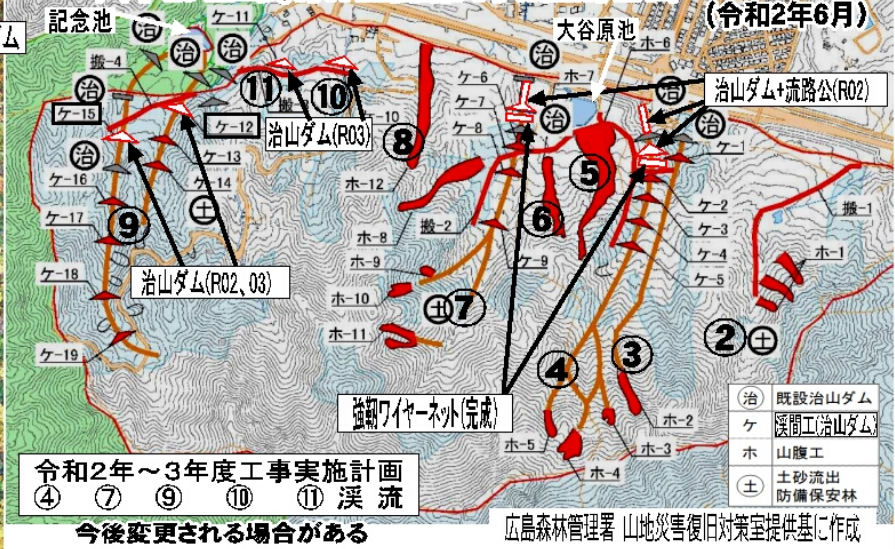
### ⑨溪流の事業計画



下流域で、現在、ワイヤーネットの完成させられた。現在、ネットの下流域で

溪間工(治山ダムと流路工)に取組むなか、既存の治山ダムに捕捉された巨石や土砂で流路の整備が行われている。(写真中) このまま進めば来年2月④、⑦溪流の最下流域に治山ダムが完成する。また、曾場ケ城山西にある⑨溪流は大きな土石流を起こしたが、下流の既設治山ダムや記念池に吸収され難を逃れた。しかし、ダムや池は土砂等で埋まり豪雨になれば再発の恐れがある。

### 八本松地区民有林直轄治山事業全体計画



令和2年~3年度工事実施計画  
④ ⑦ ⑨ ⑩ ⑪ 溪流  
今後変更される場合がある

広島森林管理署 山地災害復旧対策室提供基に作成

# 住民の方の安全を確保

## ⑩溪流 水路と溜枮の復旧

東広島市

そのため、このほど設計が完了し、地元の内諾のとれた2基の大型の治山ダム(ケ115、12)を令和2年度から3年度にかけて施工する計画(1面写真下)

更に、宗吉の団地内に土石流災害を引き起こした⑩、⑪溪流についても地元の強い要請により、2カ所の溪間工(治山ダム)が令和3年度に行われる予定。

これで、ひとまず土砂災害を引き起こした主な溪流の最下流域にそれぞれ防災施設が完成することになる。その後、更に安全性を確保するため、上流部に幾重にも溪間工や山腹工が施工される。

(1面下図) 説明にあたった林野庁の畑田さんは、「業者の皆さん(株SEIWA)は、今年の雨季に間に合うよう、新型コロナウイルスにも負けず頑張ってください。今後も住民の皆様には、ご協力よろしくお願ひします」と述べた。また、3月1日の災害復旧工事説明会で地元住民の方の要望(⑩溪流の水路と溜枮の復旧を求める)に対し、市建設部の永岡さんは、「4月上旬に市建設部維持課が現場の溜枮や上流の水路に堆積していた瓦礫を撤去する等の復旧施工を行った」と報告した。

望(⑩溪流の水路と溜枮の復旧を求める)に対し、市建設部の永岡さんは、「4月上旬に市建設部維持課が現場の溜枮や上流の水路に堆積していた瓦礫を撤去する等の復旧施工を行った」と報告した。

(写真左)



⑩溪流 7.06西日本豪雨時の瓦礫を取り除かれた溜枮

# 災害時の安否確認 恒例化

いざという時の助け合いに備えて 一人で避難することが困難な方も

6月7日早朝、八本松みなみ地区自主防災会(会長 横井國盛)は、恒例となつている災害時の安否確認訓練を実施した。

この訓練は年2回行われる環境美化作業の日に合わせ行われ、今回は11回目。

安否確認訓練は、更の有無を班長さんに報告し「安否確認基本台帳」を修正するとともに、ご近所との理解を深めたり災害時に一人で避難することが困難な方への支援を皆さんの協力で行いやすくなるの



八本松南地区 4ブロック3班の皆さん



いざという時の行動を唱和



安否確認する小田さん(左端)

阪神・淡路大震災での教訓

### 生き埋めや閉じ込められた際の救助

自力で	家族に	友人・隣人に	通行人に	救助隊に	その他
34.9%	31.9%	28.1%	2.6%	1.7%	0.9%

自助・共助 97.5%

公助 2.5%

### 自助・共助の重要性

八本松南区「自治会だより」(R02.5.20)より

八本松南の4ブロック3班(班長 小田裕子)も21世帯23名の方が集まり家族状況を報告。その後、「突然大地震が発生したときどうするか」を班長さんのリードにより全員で唱和する等、いざという時に直ぐに助け合えるようご近所同士の情報交換が行われていた。

なお、八本松みなみ地区全体の参加者は740人、参加世帯は347世帯、参加率は80.9%と高率であった。